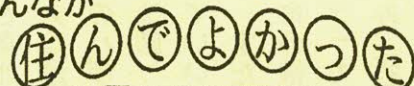




暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが



と思える川西市に...

# たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員団控え室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



## オンデマンドモビリティ 大和地区で実証実験

### 実験期間中阪急バスは休止？！



オンデマンドモビリティサービスは、ソフトバンクとトヨタが昨年設立した共同出資会社「MONET Technologies」(略称モネ)が全国の自治体と連携して進めている事業。

既存のバス路線がなくなるなどの不便さのほかスマートフォンや電話での登録、

不便さ・煩雑さは？

いくことになりす。

住民は、スマートフォンや電話で「どこからどこまで」を事前に予約。事業者が「乗り合う相手」との運行ルートや時間を調整したうえで住民に時間と場所を指定し「タクシー

今後、住民への説明や審議会・法定会議での議論、阪急バスとの調整などで詰めていくことになりす。

#### スマートフォン活用

大和での実証実験の内容は、①登録制、②大和団地、市立川西病院までのルートを考えている、③一回料金は160円、タクシー初乗り料金(680円)程度で調整、④タクシー4台(ワンボックスカーなど)を設定。⑤実証実験は2年間、朝9時〜夕方5時⑥電子マネー導入など検討。

オンデマンドサービスでは、市内のバス路線全体を見渡した今後の公共交通網を

金が増額要求(3倍)がある

市の説明では、大和と平野間の阪急バスは市内唯一の地域バスで約1400万円の補助金を出しています。阪急バスからは運転手確保がむずかしく、人件費高騰などで補助金の増額要求(3倍)がある

事前に登録し乗り合う

阪急バスは実験時間以外の早期〜午前9時までと午後5時以降は運行。現在と同程度程度の補助金を市が阪急バスに払う予定です。大和団地以外への影響、タクシー会社の料金設定など課題は山積。住民への情報提供・十分な説明が必要です。

12月12日の建設公企常任委員会協議会で「オンデマンドモビリティサービス(乗り合いタクシーの導入)の実証実験」を大和団地で行うとの説明がありました。2020年1月から地元の大和団地で協議を始め、7月から運行を開始する計画です。

9時〜5時バス運休

地域のバスは現在、阪急バスが大和団地内と畦野駅、山下駅、市立川西病院、平野のルートを定期便・1回160円(一部220円)で運行中ですが、実証実験で乗客データを集める必要上、実験中の午前9時〜午後5時は運行を休止する予定です。

時前予約、返信といった煩雑な手続きが必要になります。将来、スマートフォン・電子マネー導入や自動運行なども見据えており、高齢者や障がい者、こども達への対応が必要になります。

#### バス早期、夜は運行

阪急バスは実験時間以外の早期〜午前9時までと午後5時以降は運行。現在と同程度程度の補助金を市が阪急バスに払う予定です。大和団地以外への影響、タクシー会社の料金設定など課題は山積。住民への情報提供・十分な説明が必要です。

#### 実験終了後の対応は？

実験の推進はモネに委託し、今年度は調査などに200万円の事業費を計上。来年度は国の補助があるとのこと。

実証実験終了後はどうなるかは定かではありません。その間に阪急バスが撤退しないかと不安が募ります。

## 協和会にさせていただく「関係」なのか？ 市と協和会との関係をたどす

上半期は減少続く  
市立病院整備調査特別委員会が11月17日開催、指定管理者制度に移行した4〜9月の実績やモニターの結果などの報告がありました。移行後の運営は、4階北病棟の閉鎖や10:1看護体制のまま推移。整形外科等の常勤医師が十分確保できず、看護師対策では、ベトナム人留学生16人を看護補助者として確保して対応。入院、外来患者とも2年連続減少し、営業収益が大幅減となっています。

下手に出る必要はない  
この委員会で私(黒田)は、一番違和感を覚えている「市と指定管理者(協和会)との「関係」について厳しくいただきました。というのは市の報告に対して質問すると、市の担当者から「(協和会に)して頂けるとおもいます」という答弁ばかりが返ってくることに對してです。

市が指定管理料を払い、管理・運営を委託しているわけで、「して頂けるとおもいます」といった下手に出る必要はありません。



「報告していただけたらと思う」  
例えば、指定管理者モニタリングチェック表の評価ポイント欄に「医療安全確保に向けた体制が確立しているか(ヒヤリハットレポート報告件数、医療事故報告件数など)」という項目がありますが、協和会のコメント欄は「医療安全管理室を中心に体制が確立している」と記載されているだけ。報告件数は不明で、自己評価の評点は4点(優れている)です。この点を質問すると市は「報告していただけたらと思います」と答えるといった具合なのです。

経営評価委員会の報告書でも「2019年度の収支計画値と実績見込みに大きな差異がある。年間実績見込がもっと減少するのではなか。人間ドッグや検診等はこの項目に計上されているか。」との委員の質問に、協和会が「営業外の収益及び費用、人間ドッグや検診については、手持ちの資料がないため、申し訳ないが今はお答えできない」と答えています。  
後日の報告も求めない  
「その資料は後日提出させたのか」とたどすと「評価委員会は年3回開くので第3回目に報告いた

多く、手持ちの資料がないこともあり、やむを得ない」と市が答弁。  
反省の答弁「今後厳しく」  
私(黒田)が市と協和会の関係をたどすと、市は「市と協和会は対等の関係。我々の言い回し、言葉使いへの指摘はごもっとも。今後厳しく望む」とお詫びの答弁がありました。税金で委託するのですから、市が気遣うのは住民に対してであり、協和会にへり下る必要はありません。

単位千円	2019・計画	実績見込
営業収益	4487221	3195888
▼12億9133万3000円		▼28.8%